







徳角二

徳



東二見漁協







御厨神社

東二見漁業協同組合

近藤 俊一

















# 三見横河家について

古くから、豪族として多くの宮廷歌人に親しまれた三見の藩を見はるかすこの地は、横河家本陣跡で、横河家および横河グループ創建事業の発祥の地である。

横河家は、字が源氏である近江の佐々木の党の一族で、南北朝の祖、十一世赤松三左衛門重光は、宇佐八幡宮において、神恩の剣を賜わり、播磨の強敵を平らげた武将で、その功により室谷知を得たので、室谷も姓とした。重光が太祖で、正慶2年(1333)に没し、鬼首神として、東三見に祀られている。

室町時代に公考は、別所氏に属して武功をたて、姓を横河と改め、文明4年(1472)に観音寺本堂横に法厳寺を建てた。

室谷安重は、元龜年中(1570~73)に三見を襲った海賊の将と戦って共に戦死したため、兄重定は、残族を康州田川まで連れてこれを降伏させた。村民は、忠父のように敬慕した。而今、家の白壁を塗り変えて赤壁としたので、赤壁の家と呼ばれた。

重定の子重徳は、慶長6年(1601)16歳の時、池田輝政に仕えて船大將を命ぜられ、水夫百余人を指揮した。高砂築城の時、重徳は、龍山から巨石を切り出して使用し大いに賞せられた。同19年11月、大坂冬の陣に重徳は、池田忠雄の船大將を勤め、宿摩河において、敵将平手直房を討ち取ったので、この戦、一番鎧一番首の功として、家康と高嶺とから感状を、忠雄の母良照院から感状を授けられた。

寛永元年(1624)、大坂城落門の石垣築造の時重徳は、備前大鳴から、願4割、横8間の巨石を切り出して海上を大坂城に運び、人々を驚かした。横門前の巨石がこれである。

この公園の隣の菩提寺観音寺にある重徳の巨碑は、市指定文化財である。

横河秋徳は、重定の子で、西洋医学を志し、江戸に出て、志田、坪井の二文藝者について、蘭学を学び、嘉永3年(1850)、帰郷して、西洋印刷機による新聞業を開始したので、志者や門生が次々と絶えず、地方発展の盛りに貢献した。

この公園は、横河のあたりに  
いご好意により明石市に寄附いた  
だいたのものです。

ここに、二見横河公園と名づけ  
市民の憩いの場とするものです。

昭和62年3月

明石市長 小川 剛



P  
入口

ふれあいプラザ

高さ制限 1.95 M

この地域の自治体の取り組み  
自治体の取り組み  
ごみ分別

事務所  
SUNNY  
1000  
1000





Yanmar MARINE

Yanmar M

HITACHI





